

「虐待による乳幼児頭部外傷（Abusive Head Trauma in Infants and Children:以下 AHT）に対する日本小児科学会の見解への賛同」について

公益社団法人日本小児科学会会長 岡 明先生から公益社団法人日本小児歯科学会へ「虐待による乳幼児頭部外傷（Abusive Head Trauma in Infants and Children:以下 AHT）」に対して下記に示す「日本小児科学会の見解」への賛同依頼が提示されました。

- 1) AHT の疾患概念は医学的根拠の蓄積によって確立されており、世界の多くの学術会議でその医学的妥当性について合意しています。
- 2) 小児科を始めとする子どもに関わる医療者は、慎重に AHT の鑑別診断を行なっています。
- 3) 子どもに関わる全ての医療者は、子どもの代弁者として Child First の原則を堅持して行動する必要があります。

日本小児歯科学会においても子どもの健康や福祉を増進する立場にあり AHT など子どもに危害が及ぶ状況（児童虐待など）に関して小児科学会など関連の学会と共同して社会に対して意見を述べ、子どもの安心・安全を守る必要があります。従って日本小児科学会から提示のありました虐待による乳幼児頭部外傷（Abusive Head Trauma in Infants and Children:以下 AHT）に対する日本小児科学会の見解に日本小児歯科学会理事全員一致で賛同致します。

令和 3 年 1 月 19 日

公益社団法人日本小児歯科学会  
理事長 牧 憲司